

科目名	後療法実技2						年度	2026	
英語科目名	Aftertreatment theory 2						学期	後期	
学科・学年	柔道整復科 2年次	必/選	必	時間数	30	単位数	1	種別※	実技
担当教員	星野虎之助	教員の実務経験		有	実務経験の職種		柔道整復師(接骨院にて勤務経験あり)		

【科目の目的】

医師と柔道整復師に限られた独占的業務である骨折・脱臼の整復について、その回復までの施術効果を補完するために後療法の実技を学ぶ。

【科目の概要】

部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。

【到達目標】

後療法とは、固定を除去した日から始まるものではなく、患部外への手技療法や運動療法など固定を施した直後から開始されるものである。各療法ともその意義を十分に理解して、注意すべき禁忌事項を把握した上で、必要な技術を体得する事を到達目標とする。

【授業の注意点】

国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。実技であるため白衣未着用であったり、爪の手入れ不足などの不衛生な状態での授業参加も認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力
到達目標 A	脊柱の構造と機能について完全に理解している。	脊柱の構造と機能について大体理解している	脊柱の構造と機能について部分的に理解している。	脊柱の構造と機能についての理解がやや不足している。	脊柱の構造と機能について理解していない。
到達目標 B	腰痛の診方について完全に理解している。	腰痛の診方について大体理解している	腰痛の診方について部分的に理解している。	腰痛の診方についての理解がやや不足している。	腰痛の診方について理解していない。
到達目標 C	肩甲骨周囲筋の触診と施術を的確に行うことができる。	肩甲骨周囲筋の触診と施術を概ね行うことができる。	肩甲骨周囲筋の触診と施術の必要性は理解はしている。	肩甲骨周囲筋の触診と施術の必要性についてやや理解不足である。	肩甲骨周囲筋の触診と施術の必要性について理解していない。
到達目標 D	上腕から前腕の施術についての的確に行うことができる。	上腕から前腕の施術について概ね行うことができる。	上腕から前腕の施術について必要性は理解はしている。	上腕から前腕の施術についての必要性がやや理解不足である。	上腕から前腕の施術の必要性を理解していない。
到達目標 E	大腿から下腿・足部の施術を的確に行うことができる。	大腿から下腿・足部の施術を概ね行うことができる。	大腿から下腿・足部の施術について必要性は理解はしている。	大腿から下腿・足部の施術についての必要性がやや理解不足である。	大腿から下腿・足部の施術の必要性を理解していない。

【教科書】

教科書（柔道整復理論-社団法人全国柔道整復学校協会 監修-）に準拠する。

【参考資料】

あん摩マッサージ指圧実技（基礎編）東洋療法学校協会編

【成績の評価方法・評価基準】

試験と課題を総合的に評価する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		後療法実技2			年度	2026
英語表記		Aftertreatment theory 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	脊柱の構造と機能について	脊柱の構造や筋をを理解する	1 脊柱の構造	各脊椎の特徴、構造を理解する	3	
			2 脊柱の機能	脊柱の可動域を理解する		
			3 脊柱の筋	脊柱周囲の筋の作用、支配神経を理解する		
2	腰痛の診方	腰痛の手技を習得する	1 触診	各部位名称の硬結、圧痛点を理解する	3	
			2 テスト法	各種テスト法を理解し、実際に行い習得する		
			3 手技の実技	各種疾患に対する数種類の手技を習得する		
3	肩甲骨周囲筋の触診	肩甲骨や周囲の筋の特徴を理解する	1 肩甲骨の構造	各部の名称、特徴を理解する	3	
			2 筋の名称、作用	筋の名称、作用、可動域を理解する		
			3 触診	各部位の触診を習得する		
4	肩甲骨周囲筋の施術	肩甲骨周囲の手技を習得する	1 ゼロポジション	ゼロポジションを理解し、PNFの技術を習得する	3	
			2 座位	座位での手技を習得する		
			3 伏臥位、側臥位	伏臥位、側臥位での手技を習得する		
5	上腕～前腕の機能について	上肢の骨や筋を理解する	1 上腕部の構造	各部位、特徴を理解する	3	
			2 前腕部の構造	各部位、特徴を理解する		
			3 筋の名称、作用	筋の名称、作用、可動域を理解する		
6	上腕～前腕の施術	上肢の手技を習得する	1 触診、テスト法	各部位の触診、各種テスト法を習得する	3	
			2 上腕部の実技	各部位に合った手技を習得する		
			3 前腕部の実技	各部位に合った手技を習得する		
7	大腿～下腿の機能について	下肢の骨や筋を理解する	1 大腿部の構造	各部位、特徴を理解する	3	
			2 下腿部の構造	各部位、特徴を理解する		
			3 筋の名称、作用	筋の名称、作用、可動域を理解する		
8	振り返り	後期1回～7回の講義の振り返り。	1 腰部の実技	各部位に合った手技を数種類、習得する	3	
			2 肩甲骨の実技	各部位に合った手技を数種類、習得する		
			3 上肢の実技	各部位に合った手技を数種類、習得する		
9	大腿から下腿の施術	下肢の手技を習得する	1 触診、テスト法	各部位の触診、各種テスト法を習得する	3	
			2 大腿部の実技	各部位に合った手技を習得する		
			3 下腿部の実技	各部位に合った手技を習得する		
10	足部の診方	足部の骨や筋、靭帯を理解する	1 足根骨の構造	各部位、特徴を理解する	3	
			2 中足骨、指骨の構造	各部位、特徴を理解する		
			3 筋の名称、作用	筋の名称、作用、可動域を理解する		
11	足部の施術	足部の手技を習得する	1 触診、テスト法	各部位の触診、各種テスト法を習得する	3	
			2 足背部の実技	各部位に合った手技を習得する		
			3 足底部の実技	各部位に合った手技を習得する		
12	全身（上半身）の施術	上半身を通して、手技を行う	1 上半身の触診	正確に触診、テスト法が出来るか確認する	3	
			2 座位の実技	各部位に合った手技を数種類、習得する		
			3 伏臥位の実技	各部位に合った手技を数種類、習得する		
13	全身（下半身）の施術	下半身を通して、手技を行う	1 下半身の触診	正確に触診、テスト法が出来るか確認する	3	
			2 伏臥位の実技	各部位に合った手技を数種類、習得する		
			3 仰臥位の実技	各部位に合った手技を数種類、習得する		
14	振り返り	後期9回～13回の講義の振り返り。	1 触診、テスト法	各部位の触診、各種テスト法を習得する	3	
			2 大腿部の実技	各部位に合った手技を習得する		
			3 下腿部、足部の実技	各部位に合った手技を習得する		
15	ストレッチ	ストレッチの効果を理解し、技術を習得する	1 目的、効果	ストレッチの目的効果を理解する	3	
			2 方法	ストレッチの具体的なやり方を習得する		
			3 実技	実際にストレッチを行い、効果を体感する		

評価方法：1. 小テスト、64. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等